

2025 年 10 月 12 日（日）第二礼拝「サウジアラビアの聖書的背景」創世記 21 章 11～18 節

今日、サウジアラビアは膨大な石油資源を通して急速な経済発展を遂げています。この国にはイスラム教の三大聖地のうち二つ(メッカとメディナ)があり、世界の十八億人のムスリムがメッカにあるカバに向かって一日五度の礼拝を捧げます。サウジアラビアはイスラム教国家のリーダー(宗主国)であり、聖書的観点からも神様の救いの働きに深く関連しています。

第一番目、聖書の中のサウジアラビアです。サウジアラビアはアブラハムの子、イシュマエルの土地です。神様はアブラハムに「あなたから生まれる子があなたの跡取りだ」と言われましたが、子どもが与えられず、サラは女奴隷ハガルをアブラハムに与えました。ハガルが妊娠した時、女主人サラを見下げたため、サラはハガルをいじめ、ハガルは家を出ました。しかし、神様はハガルを家に帰され、サラに仕えるように言われました。また、イサクが乳離れした時、イシュマエルがイサクをからかったのを見て、サラはハガルとイシュマエルを追い出すように言いました。非常に悩んだアブラハムに神様はイシュマエルも一つの国民になると言われました。神様の約束の通りイシュマエルの子孫から多くの国民が生まれました。

第二番目、モーセの避難場所、ミディアンの荒野です。モーセはエジプト人を殺害し、サウジアラビアにあるミディアンの荒野に逃げました。そこでイテロの娘と結婚し、四十年間そこに住みました。モーセが八十歳の時、ホレブの山の檜の木ところで神様と出会いました。神様に召されたモーセは、神様の力でエジプトからイスラエルの民を連れ出し、分かれた紅海を渡り、ミディアンの荒野に入りました。この紅海が分かれた時のアカバ湾や十戒が与えられたラウズ山がサウジアラビアにあります。また、モーセが杖で岩を打った時に水が出たホレブ山もあります。その岩とはイエス・キリストです。イエス様は私たちの罪を背負って、律法によって一度打たれましたが、私たちはそのことを信じて信仰告白(命令)をすることで救われます。このような歴史的遺跡が、サウジアラビアにはたくさんあります。

第三番目、アブラハムの家族の和解です。アブラハムの家族には、葛藤や分裂がありました。アブラハムはハガルとイシュマエルにわずかなパンと水だけを与え、家を追い出しました。神様は死にかけた二人を助け、イシュマエルを「大いなる国民にする」と言われました。しかし、家から追い出され、酷い仕打ちを受けた時の深い傷が、四千年経つ今もイシュマエルの子孫に残っています。ここからテロリストがたくさん出ました。この問題の解決策は、イエス様の十字架以外にありません。以前、イスラム教のテロリストのリーダーが救われ、涙ながらに証をしました。彼はその左肩に手が触れるのを感じ、「わたしはあなたを赦します」という声を聞き、赦されたことを実感しました。彼が「あなたはどなたですか。」と聞くと、「わたしはイエス・キリスト、生ける神です。」と言われました。このイエス様との出会いを通して、彼は変えられ、救われました。このように、現在イスラム教の人々がイエス様と出会い、深い傷が癒され、赦しを体験し、救われています。今回のサウジアラビアへの旅路もまた、アブラハムの家族の和解と祝福の旅路となると信じます。アーメン！